

【助成採択者情報】 ※申請書記載内容に基づく

採 択 年 度

2024 年度

氏 名

蓮尾 英明

所 属 機 関

関西医科大学心療内科学講座

課 題 名

がん皮膚浸潤によるがん疼痛に対するリドカイン軟膏の有効性と安全性に関する無作為化二重盲検プラセボ対照クロスオーバー比較試験

助 成 額

3,000,000 円

研究報告概要

進行がん患者におけるがんの皮膚浸潤によるがん疼痛、がん罹患者における術後・放射線粘膜障害によるがん治療に関連した痛みはオピオイド等の鎮痛剤の全身投与に不応であることが多く、われわれはがん罹患者が経験する「(新たな痛みの分類としての)局所痛」の概念、局所麻酔薬による局所投与を提唱している。非がんの神経障害性疼痛では、高濃度リドカイン軟膏は弱い推奨として提案されており、鎮痛剤の全身投与よりも忍容性、安全性で優れている。リドカイン軟膏の鎮痛効果の本態には、圧刺激の求心性インパルス伝導抑制による皮膚麻酔効果、末梢神経損傷の異所性神経活動の抑制効果等が挙げられる。われわれはがんの神経障害性疼痛（アロディニア）によるがん疼痛の高濃度リドカイン軟膏のRCTを完遂させているが、がん治癒期から終末期までの幅広い病態の局所痛を対象として痛みの局所治療としての局所麻酔薬の有効性と安全性のエビデンスレベルをあげる必要がある。局所麻酔である高濃度リドカイン軟膏塗布による局所治療が標準治療として確立できれば、がん罹患者にとって切実な問題の解決策となりうる。これは、オピオイド鎮痛薬に偏らない疼痛緩和に寄与し、実臨床で塗布をケアとして実践している看護師等との連携強化にもつながる。

本研究の目的は、がんの皮膚浸潤によるがん疼痛、術後・放射線粘膜障害によるがん治療に関連した痛みが高濃度リドカイン軟膏が有効かつ安全であるという仮説の立証を、無作為化二重盲検プラセボ対照クロスオーバー比較試験で明らかにすることである。本研究の仮説が立証されれば、病態によっては局所麻酔薬が積極的に活用される可能性がある。局所麻酔薬は、緩和ケア領域のキードラッグであり、啓発意義がある。